

# 環境経営レポート

令和4（2022）年度版  
活動期間（2022年5月～2023年4月）



## 株式会社 山下製作所

発行日：2023年 6月 23日

エコアクション21  
認証番号 0005032

承認	作成
山下	矢野

# 目 次

1. 会社組織の概要
2. 認証登録範囲と実施体制
3. 環境経営方針
4. 負荷状況の集計結果と評価
  - 目標とその活動実績
  - 廃棄物排出量の実績
  - 年度ごとの実績推移
  - 実績推移のグラフ
  - 2022（令和4）年度の実績取りまとめ
  - 環境負荷状況の結果と評価、および実績推移の分析
5. 環境活動の取り組み結果と評価
  - EA21経営システムの実施状況
  - 環境関連法規等（遵守評価記録）の取りまとめ
  - 環境上の緊急事態の想定、予防策
  - 緊急環境訓練の実施状況
  - 今期の環境改善への取り組み
  - これまでの環境改善への取り組み
  - 今年度の取組計画と、その結果および評価
6. 次年度以降の活動計画
  - 中長期的な環境経営目標
  - 次年度以降の取り組み活動の計画
7. 代表者の評価と見直し
  - 代表者による全体評価、課題とチャンスおよび見直し

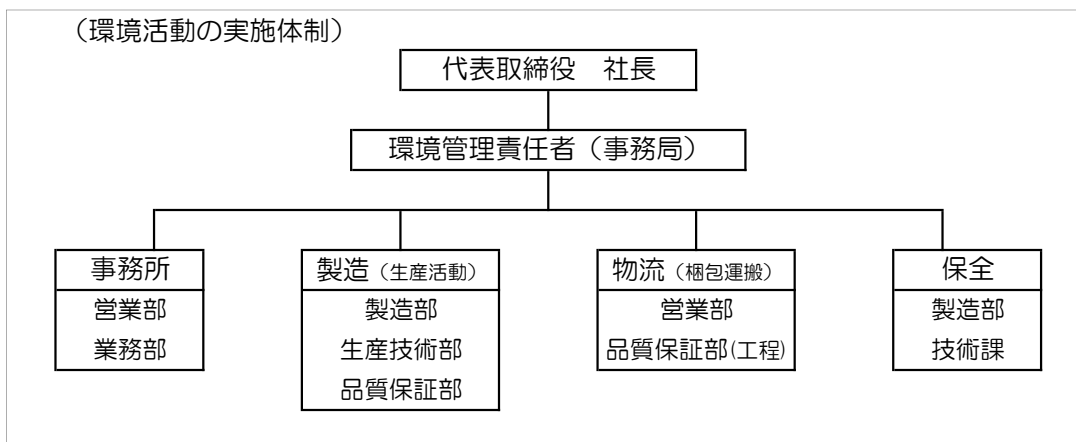
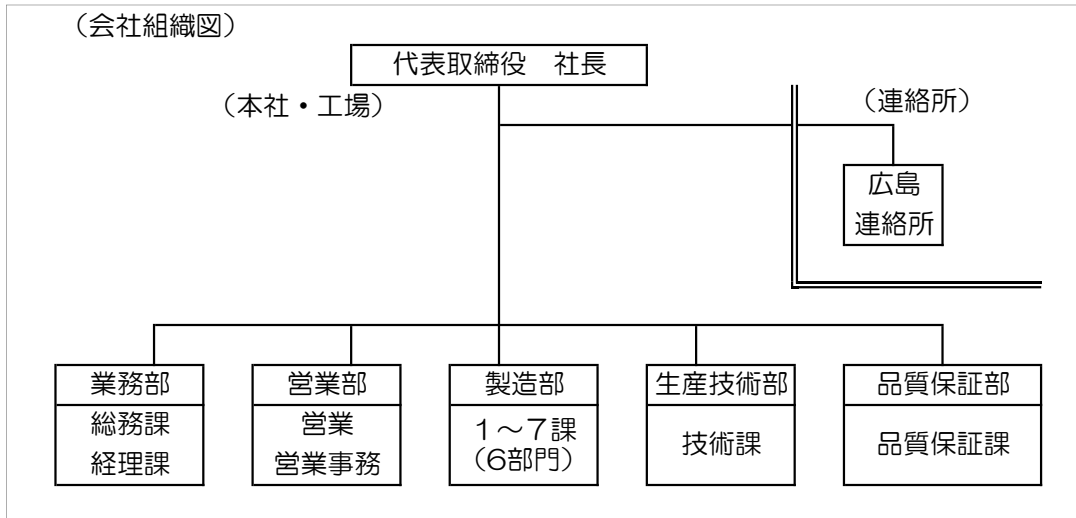
## 1. 会社組織の概要

- 事業所名 株式会社山下製作所
- 代表者 山下 洋司
- 設立年月日 昭和32（1957）年5月1日 創業
- 所在地、連絡先 〒457-0802  
愛知県名古屋市南区要町2丁目15番地の1  
TEL 052-612-2555  
FAX 052-612-6565
- 事業内容 大小各種研削盤による精密研削加工、  
治工具・型・各種精密機械部品の製作、  
自動化・省力化機器の製作
- 事業規模 資本金 1000万円  
売上高 9億3792万円（2022年度実績）  
（令和4年4月21日～令和5年4月20日）  
従業員 70名（令和5年6月1日現在）  
延べ床面積 4822㎡
- 環境管理責任者 総務課 矢野芳隆  
E-mail yano@yamashita-ss.co.jp
- EA21事務局 （管理責任者兼務）

## 2. 認証登録範囲と実施体制

- 対象事業所 本社・工場  
(2018年11月より広島連絡所を開設しているが、業務は本社一括で実施しているため、連絡窓口としてのみ運用している)

### 組織の実施体制



### 役割、責任、権限

職名	役割・責任・権限
代表者	経営責任者として統括的な責任と権限を持ち、環境経営に関する方針を設定する。環境責任者を任命し、環境に於ける統括的な活動の指示を行うと共に結果の報告に基づいて本システムの取組み状況の評価・見直し等必要な指示をする。
環境管理責任者	EMSの構築・運用の責任と権限を持つ。EMS計画に於ける取組み状況を把握し、代表者に報告すると共に必要な指示を仰ぐ。環境に関する教育計画を立て、訓練を実施する。
事務局	管理責任者が兼務し環境にかかわる業務を取り仕切る。
各部門長	管理責任者の指示により、自部署に於けるEMSの構築・運用に従事する。年間目標を立て運用実績を記録し、不足不備があれば改善・修正を実施する。
一般社員	各部門長の指示のもと、EMS内容を理解し担当する運用に従事する。

### 3. 環境経営方針

#### <基本理念>

当社は「人を育て、活力ある職場を造り、一流の仕事をする」の方針のもと、事業活動により生産する精密機械部品等を通じ、地球環境・資源の有効利用、地域社会との共存と調和を重点課題と認識し、企業力向上のため全員参加で環境経営活動を推進します。

#### <経営における課題とチャンス>

当社は高い精度を保証しながら、小物から大物まで多種多様な研削加工を実践し、難易度の高い複雑な加工要求にも対応します。

高精度の製品を提供する事で省力化や省人化等にも貢献し、最終的には顧客の環境経営にも寄与出来ると考えています。

高精度を維持するための技術を維持することと、作りこみの過程で発生する資源の消費やエネルギーのロスを抑えることを両立することで顧客満足を確実に維持することを継続的な課題ととらえ、日々の改善に取り組んでゆきます。

#### <活動方針>

1. 次の事項について具体的な目標を設定し、継続的な改善活動に取り組みます。
  - ① エネルギー及び諸資源の削減により、二酸化炭素の排出量削減に努めます。
  - ② 水資源のムダを無くし消費削減を積極的に実施します。
  - ③ リサイクル活動を積極的に実施し、廃棄物の削減に努めます。
  - ④ 化学物質削減を積極的に取組み、環境リスクの削減に努めます。
  - ⑤ 環境に関する法規類を遵守します。
  - ⑥ グリーン調達を積極的に推進します。
  - ⑦ 5S活動を積極的に取組み、環境整備に努めます。
  - ⑧ ISO9001を基軸に、数値目標を設定し不良削減に取り組みムダ排除に努めます。
  - ⑨ 精密研磨により高精度製品を顧客に提供する事で、省エネ等に寄与して行きます。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを理解し順守します。  
また、該当する事項の更新内容を確認し必要に応じて変更します。
3. 環境教育を実施し全社員の環境意識の向上を計るとともに、環境レポートを作成し広く社会に環境活動を公開します。

制定 2009年5月12日

改訂 2021年4月21日

株式会社山下製作所  
代表取締役 山下 洋司

2022年度 環境活動計画書(2022年4月21日～2023年4月20日)

版番	初版	計画	作成	矢野	2022/5/21	評価	結果確認	矢野	2023/5/17
			承認	矢野	2022/5/21		結果承認	矢野	2023/5/17

方針	目標	責任部門・実績(単位)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計	評価	
経営 不良 目低 標減	<b>不良再製作及び修正品の削減</b>	全社 件															◎：目標に対し27%の削減 不良原因に対する対策の実施と現場管理者の指導や確認により削減が達成できた。次年度も活動を継続してゆく。
	基準 2018年度実績 93件	不良件数 2020	16	12	9	8	6	5	5	5	5	4	6	9	90		
	目標(-5%) 基準年度比20%削減	2021	9	11	6	5	3	5	6	7	6	5	4	8	75		
	(4期目) 74件	2022	6	5	4	5	4	5	3	4	3	3	8	4	54		
二酸化 炭素 削減	<b>電力量の削減(CO2の削減)</b>	全社 kwh															○：目標に対し0.1%の削減 コロナ禍からの回復による生産増で昨年度より電力量が増加したが、削減目標以下を達成できた。生産効率向上と不要な稼働の削減により、CO2削減活動を継続する。
	基準 2018年度実績 1,645,278kwh	電力量 2020	77,482	97,964	101,197	88,328	115,207	82,900	86,608	92,869	103,283	120,786	124,597	105,766	1,196,987		
	目標(-2%) 基準年度比8%削減 (基準変化のため) 1,513,656kwh	2021	109,150	136,775	138,617	114,838	117,922	103,064	103,994	107,546	118,580	123,306	122,622	103,877	1,400,291		
	電力会社 テプコスタマー 0.491(2018)	2022	92,528	127,558	140,238	131,860	137,753	116,579	119,749	118,727	130,646	135,983	137,660	111,803	1,501,084		
	<b>化石燃料の削減</b>	営業部 l・m <sup>3</sup>															◎：目標に対し20.9%の削減 前半はコロナ禍による運搬量減により消費が少なかった。後半は営業活動の増加により前年比で超過する月が出た。トータルでは削減目標を達成できたが、目的地への効率的なルートな選択や省エネ意識定着の活動を維持したい。
	基準 2018年度実績	2021-CO2 kg-CO2	2,946	3,944	3,809	3,254	3,915	3,499	4,743	5,721	4,288	5,833	5,426	3,944	51,324		
ガソリン 6,906L 軽油 15,060L	2022-実績 ガソリン	308	355	413	669	451	401	241	404	264	301	256	458	4,520			
灯油 4,785L 都市ガス 440m <sup>3</sup> (基準変化のため) CO2 67,871kg-co2	軽油	831	1,059	1,054	858	1,226	1,164	1,151	1,216	865	1,045	1,013	1,203	12,685			
目標(-2%) 基準年度比8%削減	灯油	0	0	0	0	0	0	0	350	715	695	406	0	2,166			
(4期目) 62,441kg-co2	ガス	22	22	17	12	12	15	26	31	30	36	34	43	300			
		kg-co2	2,916	3,616	3,726	3,801	4,247	3,979	3,598	5,027	4,700	5,216	4,305	4,275	49,405		
産業 廃棄物 削減	<b>産業廃棄物の削減</b>	全社 kg															◎：目標に対し18.8%の削減 5S活動により社内不要品の整理整頓が一段落し、成果が出始めた。再利用、再資源を徹底して更に改善したい。 ◎：目標に対して有価買取量70%の上乗せ 金属有価物の引き取りを積極的に活用し、廃棄ではなく資源として多くの売却ができた。今後も有価物の選別を推進する。
	基準 2018年度実績 廃棄物 78,267kg	廃棄物 2020	17,068	0	140	14,020	1,890	1,820	5,367	12,790	380	1,683	0	1,870	57,028		
	有価引取 5,285kg	2021	14,970	0	3,537	0	15,681	1,067	808	17,166	340	1,680	1,340	0	56,589		
	目標 (-2%、+2%)	2022	16,018	2,250	0	330	16,902	1,780	0	1,097	16,958	0	1,109	2,036	58,480		
	基準年比8%削減 廃棄物 72,006kg	有価引取 2020	0	0	1,605	0	2,204	0	1,220	750	360	1,135	0	540	7,814		
	基準年比8%増加 有価引取 5,708kg (4期目) (廃油の比重0.9l/kg)	2021	0	0	876	0	440	990	0	2,145	0	360	52	0	4,863		
		2022	1,045	360	360	0	5,312	315	0	1,935	0	0	414	0	9,741		
の水 削減 源	<b>水資源の削減</b>	全社 m <sup>3</sup>															◎：目標に対し17.8%の削減 期間内に大きな漏水事故もなく、無駄な消費を抑えることができた。今後も漏水の未然対策や節水意識向上を目指す。
	基準 2018年度実績 1,206m <sup>3</sup>	水使用量 2020	167		136		143		159		157		150		912		
	目標(-2%) 基準年度比8%削減	2021	168		162		150		146		142		135		903		
	1,110m <sup>3</sup>	2022	147		150		170		164		145		136		912		
使用 量 削減	<b>化学物質使用量の削減</b>	事務局 品															○：継続して0品を維持 期間内のPRTR規制対象品はなかった。今後も新規品のSDSを取り寄せ、対象品の管理を定着させてゆく。
	現状 PRTR 法抵触品(0品)	PRTR法 2020	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	目標 継続実施	抵触品 2021	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0品	2022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
グ リ ン 調 達	<b>グリーン調達の推進</b>	総務課 件															×：目標に対し47.7%の不足 コロナ禍による生産品の減少や消耗品購入の制限によりグリーン調達が増えなかった。追加品目の選定を進める。
	基準 2018年度実績 2017件	2020	100	21	30	166	64	78	131	138	105	20	171	161	1,185		
	目標(+2%) 基準年度比8%増加	2021	88	88	59	97	81	161	84	44	153	72	23	88	1,038		
(4期目) 2178件	2022	174	26	149	50	70	98	75	127	128	69	60	113	1,139			
環 境 配 慮 型 製 品	<b>環境配慮型製品の推進</b>	全社 本															×：目標に対し43.9%の不足 修正品の依頼が少なく、数量としてもあまり伸びなかった。営業を通して対象品目の拡大や顧客への提案を推進してゆく。
	基準 2018年度実績 1885本	再研磨品 2020	103	100	74	57	51	73	93	131	91	129	135	132	1,169		
	目標(+5%) 基準年度比20%増加	2021	130	136	111	84	84	79	82	109	64	91	85	96	1,151		
	2262本	2022	104	120	137	106	80	89	82	90	70	122	134	135	1,269		
教 育 ・ 訓 練	<b>教育・訓練の実施</b>	事務局 実施															○：予定通りの実施ができた。 目標計画、進捗・改善事項の打合せ、および環境関連情報の展開ができた。今後も定期的な教育に加えて社内周知や掲示なども活用し活動を定着してゆく。
	EA21全員の周知及び活動参加	年度方針説明(全員)	○ ●														
		管理職教育	○ ●				○ ●				○ ●						
		中堅社員教育					○ ●				○ ●						
		一般社員教育					○ ●				○ ●						
	新入社員教育												○ ●				

評価基準 ◎：目標値に対して110%以上の達成 ○：目標に対して100～109%の達成 △：目標に対して75～99%の達成 ×：目標に対して～74%の達成

#### 4. 負荷状況の集計結果 (廃棄物排出量の実績) (単位 k g)

##### 1. 産業廃棄物

	産業廃棄物					月間合計	月間累積
	研磨粉 (金属・陶器)	陶器屑 (砥石屑)	廃油 (汚水)	廃プラ (ビニール /ウエス)	木くず		
4/21~	568		14880	330	240	16,018	16,018
5/21~			1920	330		2,250	18,268
6/21~						0	18,268
7/21~				330		330	18,598
8/21~	1090		15360	230	222	16,902	35,500
9/21~			1520	260		1,780	37,280
10/21~						0	37,280
11/21~	547			280	270	1,097	38,377
12/21~	568		15900		490	16,958	55,335
1/21~						0	55,335
2/21~		899		210		1,109	56,444
3/21~4/20	516		1300	220		2,036	58,480
種別累積	3,289	899	50,880	2,190	1,222	58,480	
	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)

※ 廃プラにウエスを含む

##### 2. 事業系一般廃棄物排出量、および有価物取引 (単位 k g) ※

	事業系一般廃棄物					有価物取引			
	一般可燃	蛍光管	電池	スプレー缶	粗大ごみ	金属くず (真鍮7ヶ)	一斗缶 パール缶	廃油 (有価物)	有価合計※
4/21~	175					1045			1045
5/21~	180						400		360 ※
6/21~	175		20	5			400		360 ※
7/21~	195	6			15				0
8/21~	220					4572	380	400	5312 ※
9/21~	240						350		315 ※
10/21~	260								0
11/21~	230					1935			1935
12/21~	185		20						0
1/21~	235								0
2/21~	230				18	144		300	414 ※
3/21~4/20	245								0
	2570	6	40	5	33	7696	380	1850	9741
	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(ℓ)	(kg)

一般廃棄物合計 2654

※ 廃油重量は (ℓ) x 0.9

※ 9月度よりスプレー缶はつぶして有価買取に変更  
(一斗缶、パール缶と同時に持ち込み)

4. 負荷状況の集計結果  
(年度ごとの実績推移)

対応期間: 4月21日～翌年4月20日

				(基準年)	1期目	2期目	3期目	4期目		
主項目(投入量・排出量等)	記	個別対象項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素	① 総エネルギー投入量	A 購入電力	kwh	1,508,292	1,761,548	1,645,278	1,485,564	1,196,987	1,400,291	1,501,084
		B 化石燃料(ガソリン)	L	8,102	7,328	6,906	6,106	4,300	4,357	4,520
		C 化石燃料(軽油)	L	13,939	13,958	15,060	14,377	11,915	12,996	12,685
		D 化石燃料(灯油)	L	6,902	6,191	4,785	3,245	2,578	2,762	2,166
		E 化石燃料(都市ガス)	m <sup>3</sup>	467	447	440	391	321	304	300
		G 購入電力(係数:0.491に変換)	kg-co2	740,571	864,920	807,831	729,412	587,721	687,543	737,032
		(B-E合計) H 化石燃料(係数:2019から新基準※)	kg-co2	73,131	69,569	67,928	60,358	47,974	51,326	49,405
		【④ 温室効果ガス排出量】	I 【二酸化炭素】(電力+燃料)	kg-co2	813,702	934,489	875,759	789,770	635,695	738,869
生産	② 総物質投入量	J 資源投入量(受注個数)	個	256,326	267,026	234,372	179,656	148,168	206,072	165,401
		K 循環資源投入量(再生品)	個	1,509	1,892	1,885	1,731	1,169	1,151	1,269
	⑥ 総製品生産量又は 総製品販売量	L 製品生産量	個	256,326	267,026	234,372	179,656	148,168	206,072	165,401
		M 環境負荷低減に資する製品	個	1,509	1,892	1,885	1,731	1,169	1,151	1,269
		N 不良件数	個	250	176	93	69	90	75	54
			※ 2016年度より基準変更(工程内不良(修正可)も含める)							
	O グリーン購入	個	1,372	1,657	2,017	1,592	1,185	1,038	1,139	
	P 売上高	百万円	1,060	1,147	1,287	1,156	863	916	938	
指標	CO2削減目標基準値	Q kg-co2/売上高(I/P) (電力係数0.491・化石燃料2019新係数)	(指標)	767.64	814.72	680.47	683.19	736.61	806.63	838.42
	生産・消費者	R 従業員数	人	72	73	74	77	77	73	70
水資源	③ 水資源投入量	S 上水	m <sup>3</sup>	1,195	1,401	1,206	1,186	912	903	912
		T 指標	m <sup>3</sup> /人	16.60	19.19	16.30	15.40	11.84	12.37	13.03
	【⑨ 総排水量】	U 下水道	m <sup>3</sup>	1,195	1,401	1,206	1,186	912	903	912
廃棄物	【⑦⑧産業廃棄物等排出量】 (有価物含む)	V 産業廃棄物排出量	t	49.86	61.57	78.27	46.26	57.03	56.59	58.48
		W 指標(V/P)	kg/売上高	47.04	53.68	60.81	40.02	66.08	61.78	62.35
	※廃油は2012年途中から有価物	X 再使用(有価物・廃油比重は0.90/kg)	t	9.11	3.30	5.29	17.25	7.81	7.78	9.74
化学	⑤ 化学物質排出量・移動量	Y 移動量、排出量	kg	2010年12月をもってPRTR法抵触製品の削減を完了し、 当社内の使用量は0となった。(以降継続確認中)					0	0

電力の排出係数 : 0.491(kg-CO2/kwh)

※ テブコカスタマー(2018年度実績を使用)

指数	(年度)	2018	2019	2020	2021	2022
有価物引取量/売上高(X/P)		4.11	14.92	9.05	8.49	10.38
電力co2/売上高(G/P)		627.69	630.98	681.02	750.59	785.75
化石燃料co2/売上高(H/P)		52.78	52.21	55.59	56.03	52.67

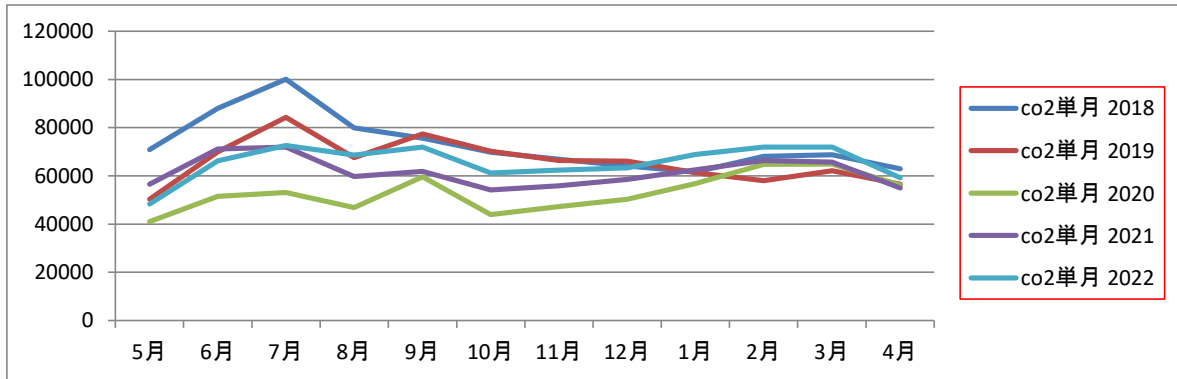
※ 他項目(負荷のとりまとめ等)の引用にて使用



#### 4. 負荷状況の集計結果 (実績推移のグラフ)

※比較のため電力の排出係数は0.491に  
化石燃料は新係数に統一している。

・kg-co2（電力+化石燃料）排出量年度内推移一年間比較（単月）（2019年度より）



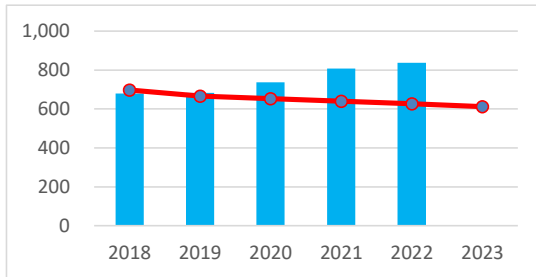
※ 2018年2月の排出量が突出しているのは電力会社切替により集計期間変更が変わる分の調整（約半月分）を含むため（以前15日締め、現在未締め）

季節変動により空調使用時に負荷が増える傾向にあると思われる（9月、2月）

2020年度の消費電力減少の主要因は、新型コロナの影響による休業で生産設備の稼働停止が影響している  
2021年度はCO2総排出量（主に電力）の伸びに対して売上が伸びず、指標比では大幅増となっている

2022年度は前半少な目に推移していたが1月を超えてから電力量の増加が見られた。生産増の影響と思われる。

#### ・売上に対するCO2排出量の推移



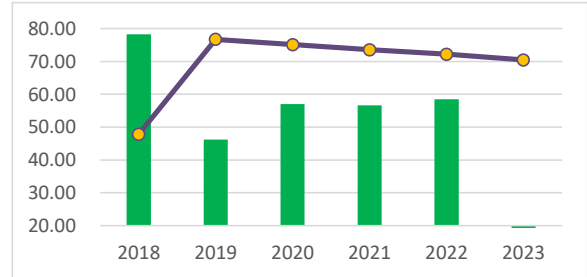
(kg-co2/百万円) -2 -4 -6 -8 -10 %

CO2排出	2018	2019	2020	2021	2022	2023
目標(kg-co2/売上)	697	666	653	639	626	612
実績(kg-co2/売上)	680	683	737	807	838	-

※比較のため電力の排出係数は0.491に統一している

削減目標 2019～ (2018年度基準 年-2%)

#### ・廃棄物排出量の推移



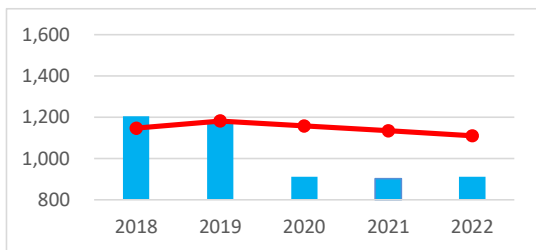
-2 -4 -6 -8 -10 %

廃棄物排出量(t)	2018	2019	2020	2021	2022	2023
目標(t)	47.87	76.70	75.14	73.57	72.19	70.44
実績(t)	78.27	46.26	57.03	56.59	58.48	-

※比較のため有価廃油および有価金属は除く

削減目標 2019～ (2018年度基準 年-2%)

#### ・水使用量の推移



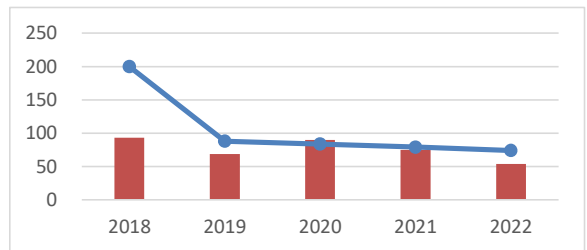
-2 -4 -6 -8 -10 %

水使用量(m³)	2018	2019	2020	2021	2022	2023
目標(m³)	1,147	1,182	1,158	1,134	1,110	1,085
実績(m³)	1,206	1,186	912	903	912	-

削減目標 2019～ (2018年度基準 年-2%)

※ 折れ線：目標値 棒グラフ：実績

#### ・不良件数の推移



-5 -10 -15 -20 -25 %

不良削減	2018	2019	2020	2021	2022	2023
目標(件)	200	88	84	79	74	70
実績(件)	93	69	90	75	54	-

削減目標 2019～ (2018年度基準 年-2%)

#### 4. 負荷状況の集計結果

(2022(令和4)年度の実績取りまとめ)

(2022年4月21日～2023年4月20日)

※ 目標値に関しては2018年が基準

項目	基準 基準年度比	目標値 ※ 2022	実績 2022	達成度 (比率)	評価 (参考)
エネルギー消費量					
電力			1,501,084 kwh		目標に対し
ガソリン			4,520 L		
軽油			12,685 L		
灯油			2,166 L		
ガス			300 m <sup>3</sup>		
電力(0.491)	8%削減(CO2)	743,205 kg-co2	737,032 kg-co2	99.2%	○ -0.8%
化石燃料(新基準変換済み)		62,493 kg-co2	49,405 kg-co2	79.1%	◎ -20.9%
合計	8%削減 (2018比)	805,698 kg-co2	786,437 kg-co2	97.6%	○ -2.4%
不良件数	20%削減 (2018比)	74 件	54 件	72.6%	◎ -27.4%
水使用量	8%削減 (2018比)	1,110 m <sup>3</sup>	912 m <sup>3</sup>	82.2%	◎ -17.8%
産業廃棄物排出量	8%削減 (2018比)	72,006 kg	58,480 kg	81.2%	◎ -18.8%
化学物質使用量	全廃継続	0 L	0 L	100.0%	○
グリーン購入	8%増加 (2018比)	2,178 個	1,139 個	52.3%	× -47.7%
総物質量	-	個	165,401 個	-	
環境配慮製品	20%増加 (2018比)	2,262 個	1,269 個	56.1%	× -43.9%

・係数を考慮した取りまとめ表

※ CO2および産廃に関しては2018年が基準

項目	基準	目標値	実績	達成度	評価
二酸化炭素排出量 (総数/売上高)					
電力 kg-co2/百万円	(2018年比)	577.47	785.75	136.1%	× 36.1%
化石燃料		48.56	52.67	108.5%	△ 8.5%
合計		8%削減	626.03	838.42	133.9%
廃棄物排出量 (総数/売上高) kg/百万円	(2018年比) 8%削減	55.95	62.35	111.4%	△ 11.4%
水使用量 (総数/従業員数) m <sup>3</sup> /人	(2018年比) 8%削減	15.0	13.0	86.9%	◎ -13.1%

※ 売上高(百万円) 2018年度：1287、2019年度：1156、2020年度：863、2021年度：916

(計算の基準となるCo2係数)

電力の排出係数： 0.491 (kg-CO2/kwh)

※ テブコカスタマー(2018年度)

評価基準(係数込みの評価も行うこと)

◎：目標に対して、110%以上の達成

△：目標に対して、75～99%の達成

○：目標に対して、100～109%の達成

×：目標に対して、74%以下の達成

#### 4. 負荷状況の集計結果

(環境負荷状況の結果と評価、および実績推移の分析)

重点項目	目標年度比		実績推移	
	結果および問題点	是正処置・予防処置	実績推移の分析	今後の対応
①購入電力削減	評価：○ 目標に対し0.1%の削減 係数：× 目標に対し36.1%の超過 工場の生産や稼働時間はやや増加したため昨年度からは増加したものの目標値に対しては削減できた。ただし、稼働時間増に比例した売上は上がらなかった。	コロナ禍の減産体制からの回復期ではあるため消費電力の総数は稼働ベースで増えてきているが、効率的な運用により目標値以下に抑えることが出来た。係数比で、稼働に対する売上が戻らず売価等の営業面を改善してゆきたい。	2018年の基準年度をピークに電力消費量は減っている。この間、コロナ禍の休業もあり、正規の稼働ベースとは相違があるという事情もあるが、以前より効率的な運用ができていられる。	電力の大半は空調や生産設備に消費されることから、効率的な生産を目指した稼働は継続してゆきたい。 今期で4期目となるため、来期の経過や結果をふまえて係数(売上比)や目標設定の見直しも検討してゆく。
②化石燃料削減	評価：◎ 目標に対し20.9%の削減 係数：△ 目標に対し8.5%の超過 仕事量増加に対して車両移動量が増加したものの目標に対しては削減できた。ただし、消費量に比例した売上高とならなかったため係数比では超過となった。	今後もドライレコーダーの活用や省エネカーへの更新、エコ運転を継続する。運用面では目標に対する削減ができていものの、係数比では売上比での改善が今後の課題となる。	2018年度の基準年度をピークに消費減を達成できている。コロナ禍による稼働減もあり、正規の稼働ベースとは相違はあるものの設備面での省エネと意識的なルート設定の成果が出ていると思われる。	省エネカーや省エネ運転の励行は継続してゆく。営業ベースの改善が係数に影響してくることから来期の経過や結果を踏まえて係数(売上比)や気候変動や社会環境変化を含め目標設定の見直しも検討してゆく。
③不良件数の削減	評価：◎ 目標に対し27.4%の削減 目標に対して大幅減となった。 生産数量が2割ほど少ないという要因もあるが、各作業者が慎重で確実な生産を実施したことで達成できたと評価したい。	各部門長から作業意識の向上のため、日々の声掛けや教育、安全な生産性向上のための活動を継続する。 未熟練者の指導や作業スキルの向上も継続課題として進める。	2018年度の基準年度の生産数には戻っておらず、売上の回復にはまだ回復していないが時間的な余裕から焦りがなく確実な作業が出来ているととれる。	発生した不良の原因分析及び再発防止策が適切かを確認し経過を含めた検証を行う。 今後も多忙や負荷に影響されない生産体制を維持したい。
④廃棄物削減およびリサイクルの推進	評価：◎ 目標に対し18.8%の削減 係数：△ 目標に対し11.4%の超過 係数(有価)：◎ 目標に対して70%の追加 廃棄物の量は減ったが比例した売上高がなかった。有価物引取の量も目標以上に好調なのでこの状態を維持したい。	現状では廃棄物削減および有価引取り自体は良好に推移している。 売上比での係数が目標未達の状態となっているため、生産活動が増える際に発生する廃棄物とのバランスに気を付けながら有価引取量を維持したい。	5S活動による整理整頓とコロナ禍の生産数の減少のバランスにより徐々に廃棄物量は減ってきている。逆に有価物取引量はある程度高めで推移しているため、社内の生産活動と廃棄する際の有価物化の見極めをしてゆきたい。	今年度同様、廃棄物の分別リサイクル、有価物の売却を進めてゆく。 また、従業員の分別・再利用意識が保てる様に定期的な巡回や指摘を行う。 売上比の係数も妥当かを検証してゆく。
⑤水使用量の削減	評価：◎ 目標に対し17.8%の削減 係数：◎ 目標に対し13.1%の削減 大きな事故、漏水、うっかりの締め忘れ等もなく、従業員の節水意識により安定して削減ができた。	今後も節水の励行や漏水の確認を継続し、未然の無駄な消費を抑えるように努めたい。	2018年度の基準年度からの経過として、コロナ禍に入ってから削減量を維持できている。生産増により消費が過剰に増えない様に注意して活動してゆきたい。	今後も節水意識を高め無駄を控えてゆく。 効果的な情報提供も心掛けてゆきたい。 特に老朽化した設備は早めに確認し修繕計画を立てて対処してゆく。 軽微な不具合は社内で修繕してゆきたい。
⑤PRTR法抵触品の削減	評価：○ 継続してPRTR法抵触品の対象品使用は0件となっている	新規の化学物質に対してはSDSをとり対象の適合有無を確認している。 社内へも情報提供や周知を継続する。	基準年度以降も対象品目0を継続している。	今後も新規の化学物質に対してはSDSを取り寄せて対象の有無を確認してゆく。
⑥エコ商品の購入	評価：× 目標に対し47.7%の未達 売上減少による購入品の制限もあり、エコ商品の購入数も減っている。現状では再生品への切り替えも一巡したが、今後も定期的な見直しを実施する。	現場や関係部署の意見を取り入れつつ切り替え可能な対象を追加してゆく。 日常消耗品の代替え選定は一段落しているものの、新規品や工業品でも意見を聞きながら反映させたい。	2018年度の基準年度からの経過として、コロナ禍以降の低調な状態が続いている。代替品目も一巡し急激な拡大も厳しくなっている。今後も相見積りや切り替えが出来ないかを検討して進める。	不要なものは購入しないを前提として、代用品や再利用を検討してゆく。 各部門にもヒアリングや情報収集をして意識を共有してゆきたい。
⑦環境配慮型製品の推進	評価：× 目標に対し43.9%の未達 受注量自体がなかなか戻らず、連動して環境配慮型製品の受注も減っている。	顧客ニーズが読めないため、現状の景気動向では厳しい状況であるが、受注品確保のためにも営業活動の一環として一層積極的に取り組みたい。	2020、21年度よりは微増となっているが2017年度をピークとして徐々に受注個数が減少している。主体的な行動はとりづらいが現状の活動を継続してゆく。	世間の設備投資の回復が前提ではあるが、顧客ニーズの情報を集め生産設備の修理時に受注につながる案件の提案できる様に、営業担当者として協力して達成してゆきたい。
総括評価	今期は生産量、売上とも昨年度比でほぼ横ばいとなった。目標に対しては削減を達成した一方で、売上高比の係数では未達となったことから売り上げ回復が環境目標達成のためにも急務となる。	活動実績自体は良好に推移していることから現状の効率化や改善による削減を維持しつつ経営環境の改善を急がなければ厳しい。受注回復と消費のバランスを考えながら展開してゆきたい。	特定要因による影響を考慮しないならば、継続的な環境負荷軽減活動は維持できていると思われるが、項目によっては基準年度より悪化したまま戻っていない状況もあり内容を分析して長期的な指針としたい。	世間ではコロナ禍の影響からの回復期にある中で売上高がなかなか伸びない。 資源や材料などの仕入高や円安など外的要因の課題も大きい営業を含む社内全体で協力し可能な範囲から改善してゆきたい。

評価基準(係数込みの評価も行うこと)

◎：目標に対して、110%以上の達成 ○：目標に対して、100~109%の達成 △：目標に対して、75~99%の達成 ×：目標に対して、74%以下の達成

5. 環境活動の取り組み結果と評価  
 (EA21経営システムの実施状況)

確認日 2023/5/18

	EA21 環境経営システム (計画5月:年度開始、確認4月:年度末)				実施状況		
	No.	必須項目	内容	担当	実施	計画	確認
計画 (Plan)	1	環境経営方針表明及び周知	①作成/見直し	社長	5月	○	○
	2	環境負荷・取組状況の把握および評価	①環境負荷の自己チェック ②環境への取組自己チェック	事務局	通年	○	○
	3	環境関連法規等の取りまとめ	①見直し(最新化)	事務局	通年	○	○
	4	環境経営目標および活動計画の策定	①中期(3年)目標の策定、見直し ②年度活動計画の作成、見直し	事務局	5月 5月	○ ○	○ ○
実施 (Do)	5	実施体制の構築	①役割、分担	事務局	5月	○	○
	6	教育訓練の実施	①管理職研修 ②各階層社員教育	事務局	年3回 都度	○ ○	○ ○
	7	環境コミュニケーション	①外部情報受付、記録(随時) ②内部ミーティング(定期的)	事務局	都度 都度	<input checked="" type="checkbox"/> ○	○ ○
	8	実施および運用	①CO2排出量削減(購入電力、化石燃料) ②廃棄物削減(リサイクル推進) ③水使用量削減 ④グリーン調達 ⑤環境負荷削減製品の取込 ⑥化学物質の削減	部門長	都度	○	○
	9	環境上の緊急事態への準備および対応	①緊急事態の想定、準備 ②対応策の定期的訓練実施	事務局	5月 9月	○ ○	○ ○
確認と整理 (Check)	10	取組状況の確認および問題の是正	①環境目標、活動計画実施状況 ②法規制遵守状況	事務局	年3回 都度	○ ○	○ ○
	11	環境関連文書・記録の作成・整理	①文書の整理 ②記録の整理	事務局	4月	○ ○	○ ○
全体の評価と見直し (Action)	12	代表者による全体評価と見直し	①全体取組状況評価、見直し、指示	社長	5月	○	○
	13	環境活動レポートの作成および公表	①レポート作成、公表	事務局	6月	○	○
外部審査	14	審査(登録・ <u>中間</u> ・ <u>更新</u> )	①活動状況の確認・是正	事務局	年1回	○	○

## 5. 環境活動の取り組み結果と評価

(環境関連法規等(遵守評価記録)の取りまとめ)

確認日 2023/5/17

法規制等の名称	該当する要求事項(対応すべき事項)	担当部署	遵守評価	評価
廃棄物処理法	・委託基準：一廃収集業者の許可の確認	総務	許可証の確認	○
	・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約(現地調査含む)	総務	許可証の確認	○
	・保管基準 廃棄物表示板(60cm×60cm以上の表示) 飛散・浸透防止、衛生管理	総務	表示状態の確認	○
	・マニフェストの交付 B2、D、E票の保管(5年間) 交付日から規定日まで返送されない場合は愛知県知事に報告する義務がある(B2票・D票は90日以内、E票は180日以内)	総務	日付、書類の整合性、返却状況の確認	○
	・産業廃棄物管理票交付状況報告書の提出 (前年4月1日から本年3月31日迄のマニフェストの交付状況の報告)	総務	提出済み記録の確認	○
	・廃蛍光灯(少量水銀)の取扱い ・廃蛍光灯の運搬、中間処理の管理	総務	少量廃棄の状況確認	○
省エネ法(1500k/年以上)	非該当(原油390k1相当：2022年度試算)	総務	継続確認	○
騒音規制法	・特定施設の届出 ・地域別騒音基準の順守	製造	対象物の追加・更新の確認 実数値の法基準以下の確認	○
振動規制法	・特定施設の届出 ・地域別振動基準の順守	製造	対象物の追加・更新の確認 実数値の法基準以下の確認	○
水質汚濁法	・貯油施設の事故時の措置と届出 ・特定施設の届出	総務	設備変更、更新確認 対象無し	○
下水道法	・除害施設の設定 ・特定施設がある場合の水質測定	総務	排水、下水状況確認 異常なし	○
フロン排出抑制法(H27,4施行)	・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認	製造	回収記録、漏れ確認 異常なし	○
	・機器点検の実施(履歴の保存) ・フロン漏えいの防止および修理処置 ・履歴の保存	総務	検査点検記録、不備 確認状況問題なし	○
化管法(PRTR制度)	・取扱い品の法令該当確認および管理 ・性状・取扱いに関する情報(SDS)の確認 ・使用量確認と集計(2010年以降対象使用量0) (年間取扱量1トン以上で従業員21名以上の場合 第1種指定化学物質取扱者は移動量を報告)	製造・生技 製造・総務	法規更新など確認 SDSと現状の確認 社内全廃後の新規・ 定期的の状況確認	○ ○
	NOx・PM法	・対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用 ・特定自動車を30台以上使用の事業者は管理計画の提出	営業	車検状況等問題なし (8台につき対象外)
消防法	・危険物保管の指定数量以上の許可申請 ・危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出 危険物対象物の管理(量、分類、保管施設)	製造・技術 総務	危険物保管庫、保管 状況、数量等確認し 問題なし	○
グリーン購入法(調達基準)	・指定化学物質の管理(非使用、基準遵守等) 物品の購入の際、なるべく環境物品等を選択	製造	基準順守の状況確認、 購入時の確認	○
労働安全衛生法	・労働安全衛生法および労働安全衛生規則の遵守	安全・衛生 管理者、総務	法、規則の状況確認 更新など問題なし	○
その他の環境関連 要求事項	・顧客からの調査票等	総務・営業	環境関連調査票など 確認し問題なし	○

※ 上記に関する法改正で影響する項目なし

記録の保管：環境事務局 情報の伝達：関連部署

## 5. 環境活動の取り組み結果と評価 (環境上の緊急事態の想定、予防策)

	状況・対応	工 場	廃 棄 物 置 場	
1	地震発生時	緊急事態	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機械が倒れ油等の流出、および水道管の破裂による漏水等の発生が予想される。</li> <li>2. 流出した油等の地中浸透による地下水汚染に繋がる可能性がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 廃棄物箱等の倒壊により、廃棄物の流出が起こる可能性がある。</li> <li>2. 設置箱の倒壊により、油が漏れて下水及び地下水汚染に繋がる可能性がある。</li> </ol>
		予防策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アンカー等にて倒壊防止をする。水道に関しては埋設管の元栓を締める。</li> <li>2. ウェスや吸着材にて油を吸収し、大量の場合は土嚢等準備し流出防止をする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 箱に蓋を取付ける。また背丈や重心の低い箱に変更し倒れにくくする。</li> <li>2. 周囲に倒れ防止の箱を設置し流出を防止する。</li> </ol>
		対応策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 転倒が起きた場合、ウェス・吸着材や土嚢などによりせき止める。</li> <li>2. 被害状況を確認し、修理業者やメーカーに連絡し復旧対策を打ち合わせる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 従業員により箱の復旧や補修を行う。</li> <li>2. 倒壊や流出が起きた場合、油吸収マットや土嚢などにより雨水路への流出を防ぎ流出油などの液体は社内バキューム等により回収する。</li> </ol>
2	火災発生時	緊急事態	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保管している油に引火し、他への延焼の可能性がある。</li> <li>2. 保管している油類の延焼により爆発等の危険がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 廃油等への延焼により煤煙の可能性はある。</li> <li>2. 廃油に引火し他への延焼が考えられる。</li> </ol>
		予防策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.2. 保管庫に一括保管し、火気厳禁の表示と換気を行い鍵を掛け火気発生を防ぐ。また消火器の適正な設置と管理を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.2. 近くに燃える物が置かないなど隔離して地震発生予防策同様の処置をする。付近の消火設備の位置を従業員に周知して災害時の対応を理解させる。</li> </ol>
		対応策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.2. 引火が確認された場合、小規模の場合は自衛消防隊が消火器等で消火活動を実施する。同時に火災状況により即消防署への通報と従業員の避難を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.2. 引火が確認された場合、小規模の場合は自衛消防隊により消火器等での消火活動を実施する。同時に火災状況によっては、即消防署への通報と従業員の避難を実施する。</li> </ol>
3	大雨、台風時	緊急事態	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 窓ガラス等の破損による飛散等の発生。</li> <li>2. 建屋への水の流入による油等の流出の可能性がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 廃油等の保管箱が倒壊し油類の流出の恐れがある。</li> <li>2. 流出した油類が下水道に流出する事が考えられる。</li> </ol>
		予防策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 窓ガラス等の事前割れ防止準備。</li> <li>2. 管理倉庫にて一括管理し流出防止を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 箱に蓋を取付け、倒壊しても中身が流出しない様にする。</li> <li>2. 取外し可能な状態で固定をして倒壊を防止する。</li> </ol>
		対応策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.2. 社内のベニヤ板、ビニールシートなどで流入、流出、飛散を防ぎ、修理業者への連絡により補修対応する。従業員に使つかない様に連絡し、流出防止用のせき止めを依頼する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.2. 倒壊した箱を従業員により復旧する。雨水路への流入を防ぐため土嚢や吸収マットによりせき止める。可能であれば社内バキュームなどで回収・隔離する。</li> </ol>
4	人為的事故発生時	緊急事態	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 油交換作業時に油缶の転倒による流出の可能性がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 廃棄物処理中に処理箱よりこぼれる可能性がある。</li> </ol>
		予防策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡単に作業が出来る様、別容器に小分け小分けにして交換する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 箱の中身を常に7分目程度で管理し処理を行う時にこぼれない状態しておく。</li> </ol>
		対応策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 転倒させた場合はすぐに缶を戻し、流出をせき止める。また1人で対応できない場合は周囲の人員や事務所へ連絡し悪化する前に回収、補修を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こぼれや溢れが発見された場合は速やかに別容器に移設し流出、漏えいしない場所保管する。溢れそうな状況が発見した場合は事務所に業者への回収依頼の連絡を行う。</li> </ol>

## 5. 環境活動の取り組み結果と評価 (緊急環境訓練の実施状況)

### • 第9回 環境時の緊急事態における訓練

実施日 2022年9月17日  
実施内容 地震発生で機械の倒壊等により油漏れ発生時の処置対応  
直接油を流す事は出来ない為、水を油に見立てて流し  
土嚢で雨水路等に流出することを防ぐ訓練を実施した。

今回は図上訓練も取り入れ、環境災害が発生した際に  
改善すべきことや優先すべきことを話し合った。

参加者 安全衛生委員会・自衛消防隊員（別途参加者名簿による）  
使用したもの ペール缶 3個（水60ℓ） 土嚢 3袋

1



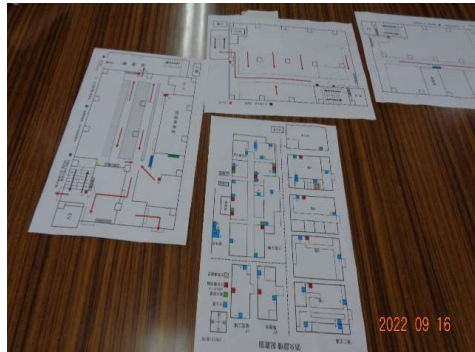
2



3



4



### • 結果と改善すべき課題

毎年委員会メンバーの入れ替えがあるため、今回も新規メンバーによる訓練を行った。結果は良好であり訓練の趣旨と手順を理解してもらった。今回、近年防災で推奨されている「図上シミュレーション」を実施した。各担当者が、今後どうしたら改善できるか自身の思った考えを述べて、話し合うことができた。

一定の成果が見られたため翌年度も実施を計画したい。

・次年度の取り組み予定

第8回環境訓練の計画

次回日程 2023年度9月予定

実施内容 9月の避難訓練に合わせて安全衛生委員・自衛消防隊員による緊急時の消火機器の使用や油流出防止の吸収マットや環境にやさしい今回実施した土嚢による壁積みを次回も実施する。

今回実施した「図上シミュレーション訓練」をこれからも継続し個々が日頃からもっている意識を打ち合わせや討論を交えて集約し、今後の改善に生かしたい。

準備するもの 土嚢 3袋 オイルフェンス（吸収マット） 2枚  
ペール缶 3個（水60ℓ） 水消火器 4台 その他

参加予定者 安全衛生委員会・自衛消防隊員



## 5. 環境活動の取り組み結果と評価

(今期の環境改善への取り組みおよびこれまでの環境改善への取り組み)

### ・P R T R法抵触化学物質の全廃に成功(2010年12月達成以降継続)

社内使用製品にP R T R法に抵触する製品が3点あったが、インターネットおよび取り扱いメーカー等にて情報を入手し、全て代用品への交換に成功した。今後の新規品もS D Sにて確認後、非該当品を使用しておく。

### ・グリーン購入を積極的に取組み中(今後品目や数量を拡大予定)

作業服、名刺、コピー用紙に加えて再生砥石、環境適応研削液も対象とした。その他の製品へも拡大予定。

### ・環境負荷の低減を考え、再研磨品を積極受注およびP Rの実施

新品を製作する場合は、素材や加工工数など環境に与える負荷が大きいと考え、修理品(再研磨品)の積極的な受注活動を実施中。

研磨前



研磨後

「ロール再研磨例」

### ・デマンド(スマートメーター)とタイマー併用による休日の省電力化とピークカット(継続)



### ・グリーン活動の実施(4年目)



### ・工場に遮熱用すだれ設置(太陽光の遮熱と暖房・空調機の高効率化)(継続)



## 5. 環境活動の取り組み結果と評価 (これまでの環境改善への取り組み)

- ・省エネ型営業車（アイドリングストップ車やハイブリッドカー）への更新（継続）



- ・フォークリフトの環境負荷軽減（実績）  
バッテリー型フォークリフト（高効率型）



- ・ドライブレコーダーの設置  
(エコ運転の意識付け) (継続)



- ・再利用できる設備、箱、仕切り板や緩衝材の再生使用による廃棄物の削減(継続)



- ・ごみの分別とフタの透過による見える化(継続)



## 5. 活動実績の評価と課題 (今年度の取組計画と、その結果および評価)

	主要な環境活動計画の内容	実施状況	評価と課題
電力	①未使用機械の電源を定期的に切る ②不要時の電灯は消す ③空調の温度管理（夏28度冬18度） ④コンプレッサーの稼働時間短縮 ⑤不良品の削減による再加工電力の削減 ⑥省エネ型照明・機器・工作機械の導入	工程の状況を見て適時実施した 無人のフロア、昼間の明るい時間帯の消灯実施 自動温度管理、デマンドの使用により実施 継続実施中 昨年度に引き続き更に削減成功 LED電灯の導入、高効率型の工作機械の購入	各現場では適切な節電や省エネ対応の設備導入などを主要活動として、従業員の協力により意識的に活動を継続できた。 特に今期は不良件数の削減で昨年度に続き大幅減となり目標を達成できた。
化石燃料	①エコ運転の推奨 ②ユーザー・外注巡回の効率化 ③備車及び宅配便の有効利用	省エネ運転の指導、周知、低燃費営業車の購入 他の営業担当者に依頼して集配を実施 宅配、備車の活用による効率的なルート運送	営業や配送の頻度が増え、燃料の消費が増えたが、売上比では更に悪化した。 効率化を意識した使用を周知する。
廃棄物	①分別箱による仕分け作業の徹底 ①金属有価物と産廃の分別の徹底 ②リサイクル可能な物の識別管理 ②ダンボール・新聞紙等を梱包材に再利用 ③コピー用紙の削減（両面使用等）	仕分けの明示と定期的な周知・監視を継続 有価物は箱を別管理して回収業者に買取委託 リサイクル品は他の部署で流用実施 ビニール、発泡緩衝材も同様に実施 継続実施中、シュレッダー紙片の梱包材にも利用	資源の再利用、廃棄物分別も定着してきた。 5S活動による廃棄物も一段落し、分別による有価買取量増加にも貢献できた。 この流れを継続し、慣れによる停滞にならない様にしたい。
水資源	①節水の励行（蛇口近くに表示） ②雨水の有効利用（草花用等） ③漏水の防止徹底	継続実施中 継続実施中 水道設備関係の補修・予防点検、定期的な巡回による異常や劣化の確認	今回は突発的な事故や漏水もなく節水意識が定着してきた。 今後も定期的な漏水確認巡回や意識付けを継続する。
化学物質	①PRTR抵触製品の使用禁止 ②SDSの管理	2010年をもって全廃 既存使用品は既に各課常設済み、新規購入品もすべて取り寄せて確認を実施している	抵触品未使用は継続出来ている。今後も新規導入品時の確認徹底と既存資料の更新差替えを行う。
グリーン購入	①コピー用紙や名刺等の再生紙購入 ②作業服等の一部再生利用品購入 ③PRTR非該当研削液・再生砥石の購入	継続実施中 継続実施中 その他対象品の検討（対象品目拡大、追加等）	現在の景気状況から新規の購入は控えつつ再生品、再資源製品の推進を継続してゆく。
環境配慮	①植物の植え込み維持による環境保護活動 ②不良品削減によるムダな資源、廃棄物削減 ③再研磨品の積極受注による再生利用促進	一部で枯れが発生した為、追加植込を実施。 不良・廃棄物の削減は昨年度に引き続き達成 再研磨品（再生品）に関しては営業活動でPRしたがコロナ禍で更に減少	継続して育成及び維持を目指してゆく。 原因と対策について、意識を持って進められ件数を減らすことが出来た。
環境法規制	①環境関連法規制遵守 ②環境関連の近隣からの苦情、訴訟への対応	過去1年間で環境関連法規違反等なし 過去1年間で近隣からの苦情、訴訟等はなし 近隣とのコミュニケーション（対話）に関する問題点も特になし	法規順守は継続できている。 今後も新規の法規、条例や変更の定期的な確認を行い、漏れの無い様に精度を上げて把握してゆきたい。
目標・計画	①各課環境目標の経過および結果・評価 ・製造部年間目標 ・生産技術部年間目標 ・営業部年間目標	省エネ・省資源・リサイクルの推進 不良削減 エコ運転（省エネ・排ガスの削減）	年間計画の教育訓練は計画通り実施できた。 全体を見ると組織改編もあり目標管理にて一部引継ぎが不足していた部門もあった。 課題の解決への相談を継続する。

6. 次年度以降の活動計画  
(指標に基づく中長期的な環境経営目標)

No.	環境目標	担当部門	指標	基準年度	2022		次年度以降		
		責任者	基準単位	2018	今期目標	今期結果	2023	2024	2025
	(売上高)	指標データ	(百万円)	1287	938				
1	二酸化炭素排出量削減 ①電力削減 ②化石燃料	①全部署各部門長 ②営業部	総量/売上高 (kg-co2/百万円)	627.7 (年-2%)	577.5 (-8%)	785.7 ×	564.9 (-10%)	552.4 (-12%)	539.8 (-14%)
				52.78 (年-2%)	48.56 (-8%)	52.67 △	47.50 (-10%)	46.45 (-12%)	45.39 (-14%)
2	廃棄物削減 リサイクル推進	全部署部門長	総量/売上高 (kg/百万円)	60.82 (年-2%)	55.95 (-8%)	62.35 △	54.73 (-10%)	53.52 (-12%)	52.30 (-14%)
				4.11 (年+2%)	4.44 (+8%)	9.74 ◎	4.52 (+10%)	4.60 (+12%)	4.69 (+14%)
3	水使用量削減	全部署部門長	総量/人数 (m <sup>3</sup> /人)	16.3 (年-2%)	15.0 (-8%)	13.03 ◎	14.668 (-10%)	14.3 (-12%)	14.0 (-14%)
4	化学物質の削減	全部署部門長	使用量 (件)	0 (継続)	0 ○	0 ○	0	0	0
5	グリーン購入 (エコ商品)	全部署部門長	件数 (個)	2017 (年+2%)	2178 (+8%)	1139 ×	2219 (+10%)	2259 (+12%)	2299 (+14%)
6	環境配慮の推進 ①不良削減 ②再研磨品受注推進	①全部署各部門長 ②営業部	件数 (件)	93 (年-5%)	74 (-20%)	54 ◎	70 (-25%)	65 (-30%)	60 (-35%)
				1885 (年+5%)	2262 (+20%)	1269 ×	2356 (+25%)	2451 (+30%)	2545 (+35%)

項目	主要な環境活動計画の内容	中長期的な目標および課題
①	①未使用機械の電源を切る ②空調の温度管理・夏28度・冬18度 ③消灯の徹底(階段・休憩時間等) ④コンプレッサの稼働時間短縮 ⑤不良品の削減(ISO9001活動)	・効率化による生産性向上と売上増を達成する ・環境負荷を軽減する改善活動の継続 ・不良品を出さないようなしくみや意識の構築
	②	①アイドリングストップの徹底 ②ユーザー・外注巡回の効率化 ③運送業者・備車などの有効利用
2	①分別箱による仕分け作業の徹底 ①金属有価物と産廃の分別の徹底 ②リサイクル可能品の識別管理 ②ダンボール・新聞紙等を梱包材に再利用 ③コピー用紙の削減(裏面利用等) ④不良品対策(再発防止) 修正使用・特採などの申請、提案	・資源の再利用と廃棄物削減 ・生産活動中の無駄を改善する ・紙伝票や配布物の電子化による省資源の推進
3	①節水表示の貼付 ②節水意識の徹底(流しっぱなし厳禁) ③水漏れの巡回確認	・漏水対策、従業員への節水意識の向上 ・夏期の水使用量削減の検討および実施
4	①PRTR抵触製品の使用禁止 ②SDSの管理	・新規製品購買時のSDS取り寄せ ・規制対象品の確認と代替え製品選定検証を継続
5	①コピー用紙や名刺の再生紙購入 ②作業服の1部再生利用品購入 ③PRTR非該当研削液・再生砥石の購入	・現状の購買品継続と新たな代替え可能な対象の確認 ・再生資源による購買品の拡充
6	①不良品の削減(ISO9001活動)	・作業者の品質意識を広げる教育訓練 ・個々の作業者による加工技能向上の仕組みや技術の構築
	①再研磨品の積極受注	・再生品(修正品再利用)生産の推進 ・不良品を出さない活動の継続

※ 2021年度よりCO2算出に基準年度をあわせた  
 ガソリン 34.6\*0.0671=2.32 灯油 36.7\*0.0678=2.49  
 電力:テブコカスター 0.491(基礎排出係数) 軽油 37.7\*0.0686=2.59 都市ガス 44.8\*0.0499=2.24

評価基準(係数込みの評価も行うこと)

◎: 目標に対して、110%以上の達成  
 △: 目標に対して、75~99%の達成

○: 目標に対して、100~109%の達成  
 ×: 目標に対して、74%以下の達成

## 6. 次年度以降の活動計画 (次年度以降の取組活動計画)

重点項目	現時点の取組み	次年度の取組み予定（検討内容を含む）
①-1 購入電力削減	コンプレッサー稼働時間の適切な管理 排気熱のダクトや送風などによる外部排出 空調温度の適正化（冷房28度、暖房20度） 昼休み時間の不要照明の消灯・人感センサーの導入 デマンド・タイマーによる消費電力のピークカット セラメタやLED照明による省エネ型電灯への交換 コンプレッサー排熱のビニールカーテンによる遮断 空調室外機のすだれ（日陰）による太陽熱遮断	空調機の省エネ型への更新による消費電力の削減（継続） メタルハライド、LED等の省エネ型電灯への交換（他部門への展開） コンプレッサー排熱の排出口を換気扇により外部に逃がす検討をする（継続） 省エネVベルトの導入検討（工作機械の駆動部）（継続） 固定消費の見直し、デマンドの活用
①-2 化石燃料削減	効率的なルート営業活動の実施 庸車・宅配便による効率的な運搬、納品 駐車場でアイドリングストップ 協力工場への重複訪問の削減（他の担当者へ依頼） エコタイヤの導入、エコ運転のマニュアルによる周知 ドライブレコーダーによる運転意識の向上	エコ運転の周知徹底（急発進、急加速削減の意識）（継続） ハイブリット、低燃費車への買い替え（継続） 営業車のエコタイヤ導入の検討（順次進める） 同一方向のまとめ配送（継続） 行先やルートの見直しと担当者個々の移動距離の把握
② リ廃サ棄イ物ク削ル減のお推よ進び	不良削減（廃棄材料の削減）、再研磨品の受注 使用済みコピーの裏面使用 不要書類のシュレッダーによる緩衝材への活用 産廃項目細分化によるリサイクル品分別 使用済みウエス等の再利用促進（床掃除や油類吸収へ） 産業廃棄物の再利用を業者と打ち合わせ シュレッダー、段ボールの緩衝材への再利用（継続）	産業廃棄物の再利用を業者と打ち合わせ（よりリサイクル可能な分別へ）（継続） 廃棄物の分類の細分化および周知（より仕分け易い項目の検討）（継続） ビニール、ウエスの再利用（緩衝材や床清掃へ利用）（継続） 廃油・古紙のリサイクル業者の回収品目の拡充（継続） 他部門から出た不要物の再利用・再生利用（5S活動）
③ の水削使用量	節水シールの掲示による意識づけ 課ごとの節水意識の向上（掲示や周知など） 水漏れ点検、漏水箇所の修理対応 手洗い時の流しっぱなしの禁止	水漏れ箇所の早期補修（継続） 流しっぱなしを防ぐためにホース直結をやめる（継続） 定期的な社内巡回および指摘（継続） 統計的な集計と増減変化の確認及び検証
④ の化削学減物質	PRTR法該当品の全廃済 SDSの管理継続	今後も継続して確認し必要な場合はSDSを取り寄せ 必要に応じて措置を取る 法規類の改正や社内使用品目の監視（継続）
⑤ 購グ入リオン	グリーン購入の維持及び拡大の検討（継続） 再生紙名刺、作業服（再生品）の購入 再生素材文具やコピー紙の購入 再生砥石、低公害型の研削液の購入	環境配慮型消耗品の導入検討および拡充とデータ管理（継続） 現状用品以外の品目追加の検討（継続） 再生砥石、低公害型の研削液の購入品目拡大の検討（継続） 再生資材や再利用資材の推進（パレットや衝立など）
⑥ の環推境進配慮	グリーン活動 不良削減 再研磨品の受注	植物の植え込みによる遮熱や床温度上昇の抑制 不良削減対策の再検討、職場環境の改善（5S3定）（継続） 環境配慮型製品（再研磨修理品）の受注推進（継続）
⑦ の法環遵規境守制関等連	過去3年間に違反の実績および関連省庁からの指摘はありません。 該当する法規制類の見直し、各章項の明示、現行法（改正法）の更新確認	法規制類の項目の明示や追加分類の再調査（継続） 消防法の再確認（明示）、騒音、振動の再チェック（可能性のある箇所のみ） フロン排出抑制法の対象機器の管理および点検（継続）
⑧ 教育訓練	環境災害時、大規模災害時の訓練 新入社員へのテキストによる環境教育 管理職への数値経過と対策の教育 図上訓練によるシミュレーションと改善点洗い出し	訓練等の参加内容の拡大（継続） 掲示物以外の周知方法の検討（継続） 前回の要望や改善点を取り込んだ内容の充実（継続） 継続した改善と意識の向上

## 7. 代表者の評価と見直し

(代表者による全体評価、課題とチャンスおよび見直し)

### 総合評価

消費量が若干増えたものの、トータルとしては改善の成果が出ていると思われる。特に廃棄物の削減と有価買取の増加、不良低減は本業での経費削減に繋がることから評価したい。

一方、昨年度比で電力量や化石燃料が若干増加したことは、やむを得ないとはいえエネルギー価格の高騰している現状では経営上の経費として厳しいものがある。また、それに見合った売上高を確保できていないことから指標としては未達となっている現状をふまえると受注量の確保が直近の課題となる。

### 今期の結果および来期に向けて検討すべき課題とチャンス

エネルギー価格の高騰、売上高の伸び悩み、再生品の個数減など営業に関連する課題が多い。逆に考えれば社内体制での環境意識は高くなっていることから売上、受注が回復すれば指標比でも良い結果が出てくると思われる。

営業各位は効率的な活動で仕事量を確保し、可能であれば再生品の受注も増やす。製造現場は効率的な稼働と無駄な消費を出さない意識で生産で仕入経費を抑える。この2つが達成できれば経営的にも安定が出る。

### 見直し内容

社内環境活動には一定の成果が出ていることから今後も継続する。  
営業の売上改善化急務であり早急に何らかの改善を図らなければならない。

設備投資、人員の技能向上など社内体制は整ったので受注量確保の課題を最優先事項として進めてほしい。

日付 2023. 6. 9

代表者名 代表取締役 山下洋司